新年を迎えて

理事長

小林 実

新年おめでとうございませう。皆様には、それぞれ今年こそはとの夢や希望をもつて、明るい初春を迎えられたことと存じます。昨年は、国の内外で、明暗こもこも記録に残る出来事が数多くありました。今年はどうなることになるのでしょうか。公私とも明るく希望の持てる穏やかな年であってほしいものです。

ところで、友の会も、急速な少子高齢化の進展を背景に、国の社会保障制度全体の見直しや変革の中で課題山積ですが、今年は、次の三点を急ぎ先行的に取り組みたいと存じます。

その一つは、療育園の増改築について、その具体的方策に一定のメドをつけることです。療育園の施設設備は、本館以外は、建設からすでに四十五年以上経過し、建設はもちろん電気空調等が経年劣化で老朽化が進み、医療ニーズをはじめもろも

ろのサービス提供や安全性の確保が容易でなくなってきたております。だがこの課題解決には、敷地や建物の一部に、県有や町有の部分があり、これらについて、関係当局との粘り強い調整や関係構築が必要となります。また一方、これらに要する資金調達は、どうするか国等の補助や貸付制度の活用が不可欠となりますが、知恵を結集しこれを確保する方策を見い出したいと存じます。

二つ目は、つばさの園等小規模事業の見直しです。これらの事業は、一定の成果を収めてはおりますが、少子化の進む中で利用者の減少傾向が続いているのが現状です。そこで近年二つの高い発達障害施策の環境として、県の取り上げた発達障害地域療育センターの設置参入を視野に全般的な見直しを行おうとするものです。

三つ目は、はるな苑の短期入所事業を、特別養護老人ホーム事業の空部屋利用型へ転換し、地域のニーズにこたえつつ、はるな苑自体

の体質向上につなげたいと存じます。県南西部地域は、近年短期を含む特養施設の新設が相次ぎ、はるな苑をとりまく環境が激変してきております。そうしたことから、これを機会に、数年来続いている赤字体質の短期事業を全床特養に転換移行することが望ましいと考えられますので、本年中に関係機関との調整を十分に終え二十九年度から実施しようとするものです。

本年は、以上述べた三点を軸に、加えてこれまで以上に利用者へのサービス向上をめざし、また情報公開等も更に進め運営の透明性を高めていきたいと考えております。

関係各位の一層のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

埼玉療育園

園長 吉武 克宏

あけましておめでとうございませう。埼玉療育園も年ごとに新たな展開をしてきております。昨年は当園の悲願である改築計画にむけての活動が具体的に進みは

じめました。

それに先立って、当園の組織理念を作り直しました。「障害者との共生社会の実現に貢献すること」を上位目標として、「地域における総合的かつ包括的な医療的療育センターをめざす」こと。信条として「障害者が生きる喜びを育てるサービスを提供すること」。そして「家族への支援も療育サービスに含める」ことなどを確認してまいりました。

幸い、いま使っている県有地もそのまま使えております。これはまさに千載一遇のチャンスです。利用者によさしく使い勝手のいい利用者(保護者)に選ばれる施設にしましょう。それには職員一人一人が知恵と工夫をだし、あつて、計画を進めていきたいと思います。

関係者およびご家族の方々のご支援もよろしくお願い申し上げます。

山鳩よりい

園長 吉田 泰明

新年あけましておめでとうございませう。皆様にはお健やかに新年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げ

げます。

山鳩よりいには、昨年十一月で開設三十五年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに関係の皆様方の温かいご支援とご指導の賜物と心から感謝を申し上げます。

昨年からは、利用者へ順次個室を提供し、地域移行や個人の自立した生活を尊重する支援に取り組んでまいりました。

施設から地域移行の取組は、平成七年頃から始まり、その内容は、田無市内の自立生活センターで行う自立に向けたプログラムを受講することでした。田無まで電車で通いましたが、その頃はエレベーターも設置されていない時代でしたので、駅員さんが長い階段を人力により車いすを持ち上げて移動してくださり、大変助かりました。

障害者差別解消法が、今年四月から施行されますが、心のバリアフリーが更に広がるよう職員一同取り組んでいきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。